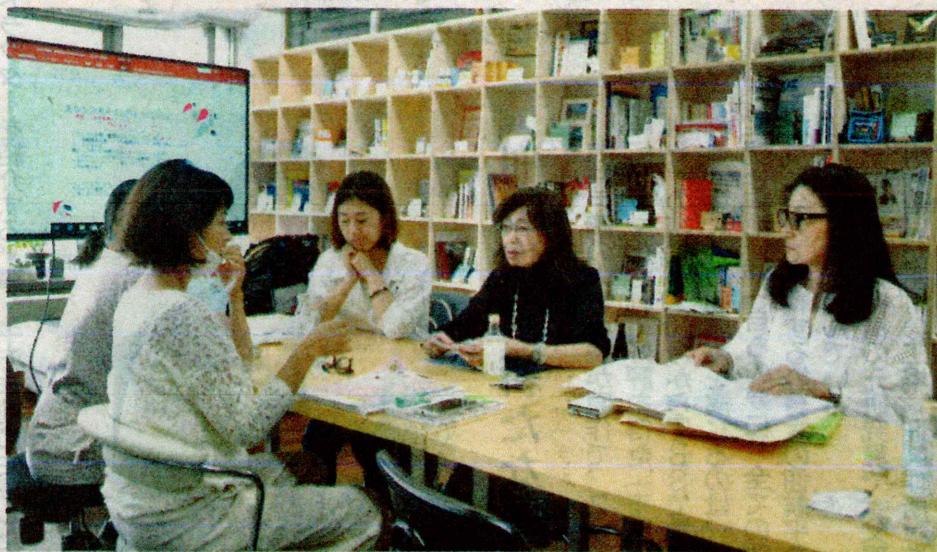


ネットワーク

「マザーアース茅ヶ崎」発足

来月16日 専門家招きイベント



9月16日のイベントに向けて話し合う「マザーアース茅ヶ崎」のメンバー
=茅ヶ崎市

防災に女性の視点を

日々の生活中で感じる防災への疑問や悩みを共有し、解決していくこと、茅ヶ崎市内の30~60代の女性10人がネットワーク「マザーアース茅ヶ崎」をつくる。情報を分かち合ってなく、

地域の視点を生かして独自の地区防災計画の作成を目指す。来月には専門家を招いた、市民も参加できるイベントを開催する。

(松島 佳子)

マザーアース茅ヶ崎の発起人は、日本防火・防災協会の防火管理者と防災管理者の資格を持つ山田秀砂さん(66)。これまでも加盟する自治会などで話しあつたり、行政と対話したりして

きたが、より生活に密接した情報の必要性を感じたという。

例えば、今の学校防災マニュアルで子どもたちを守れるのか、災害時に足腰の弱い父母を連れてどこへ避難すれば安心か、大地震で自宅が崩壊したらローンはどうなるのか。山田さんは「ママ友や近所で話題になる疑問を解消できるよう、身近な問題から取り組んでいければ」と、組織を立ち上げた理由を語る。

メンバーは、山田さんのほか、市民活動や自治会を通じて山田さんが知り合った女性9人。本格的な活動の第一弾として、来

月16日に市民参加型イベント「ちがさき防災ラブアクション」を開催する。地域安全システムが専門の東京大学生産技術研究所・加藤孝明准教授を講師に招き、日頃の不安や疑問について語り合う。このほかメンバー同士で情報を交換し合ったり、行政の対策などを考えたりするほか、会員制交流サイト(SNS)を通じて、こまめに情報を発信していく

メンバーの一人で、4年ほど前に市内に引っ越してきた登尾泉美さん(37)は、「自治会内で回覧板を回しているけれど、ほとんど近所さんることを知らない。お互い顔の見える関係になれば『いざ』というときにスムーズに助け合いができる気がする」と言う。活動を通して、住民同士の交流やつながりも生まれればと期待する。

同じくメンバーの亀鶴綾子さんは「子育てや親の介護などで地域で長い時間を過ごす女性は少なくない。そういう女性たちと緩やかにつながつなければうれしい」と話している。

16日のイベントは午前11時~午後2時。無料。問い合わせは山田さん☎090(3233)6285。